



静かなる脅威 CRE 感染症！

令和2年10月28日
富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)
(0766-56-8142 細菌部)
(0766-56-8143 ウイルス部)

感染症発生動向速報

(令和2年第43週分・10月19日～10月25日)

《 インフォメーション 》

●カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症の全国の報告数は、例年1,600例前後で推移していましたが、2018、19年は約2,300例に増加しました。県内では、年間10~21例で推移しており(表参照)、これまでに大きな院内感染事例の発生はありません。

薬剤耐性菌による感染症の1つであるCRE感染症は、カルバペネム系抗菌薬および広域β-ラクタム剤に耐性を示す大腸菌や肺炎桿菌などの腸内細菌科細菌による感染症の総称です。CREの中でも、カルバペネム分解酵素を産生する腸内細菌科細菌(CPE)は、β-ラクタム剤以外の抗菌薬にも耐性を示すことが多く、治療が困難になります。また、菌種を越えて他の細菌に薬剤耐性を伝播させることがあります。

海外では、地域によって異なるタイプのCPEが報告され、海外での感染が推定される症例が国内でも報告されています。2010年以降、国内でもCREによる大規模な院内感染の発生が相次ぎました。これに伴い、日本では2014年9月に5類全数把握疾患に追加されました。

CRE感染症は、主に免疫機能の低下した患者、外科手術後の患者、抗菌薬を長期間使用している患者などに多く、65歳以上の成人が8割を占めています。呼吸器感染症、尿路感染症、手術部位や軟部組織の感染症、カテーテルなどの医療器具関連血流感染症など、様々な感染症を起こし、しばしば院内感染の原因になります。また、無症状で腸管等に保菌されることもあります。健康な人ではCRE感染症を過度に心配する必要はありません。

CREなど薬剤耐性菌が発生する原因の一つは、抗菌薬の不適切、不必要な使用です。抗菌薬は、医師や薬剤師の指示に従い、適切に服用しましょう。

《 全数報告の感染症 》

二類感染症 結核 1件(80歳代、男性)

三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2件(①10歳代、男性、O型不明、VT1
②40歳代、女性、O型不明、VT1)

五類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2件(①60歳代、男性 ②70歳代、女性)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件(第42週診断分：60歳代、男性、A群)

《 定点報告の感染症 》

今週の県内上位7疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週(増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	2.03(↑)	1.79
2位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.72(↓)	0.76
3位	咽頭結膜熱	0.38(↑)	0.28
	突発性発しん	0.38(↑)	0.28
5位	細菌性髄膜炎	0.20(↑)	0.00
	無菌性髄膜炎	0.20(↑)	0.00
	マイコプラズマ肺炎	0.20(→)	0.20

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

CRE感染症年別届出数		
年	全国	富山県
2015	1,669	21
2016	1,573	14
2017	1,660	10
2018	2,289	19
2019	2,333	10
2020*	1,459	13

※全国10/18時点、富山県10/25時点速報値

○感染症発生動向調査報告状況（令和2年第43週 令和2年10月19日～令和2年10月25日）

分類	疾患	今週報告分（第43週）					累積報告数						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
指定感染症	新型コロナウイルス感染症							46	13	38	10	315	422
二類感染症	結核					1	1	15	4	30	8	32	89
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症		1			1	2	1	1	9		16	27
四類感染症	E型肝炎							3					3
	A型肝炎							9				1	10
	デング熱											1	1
	レジオネラ症							1		13	1	14	29
五類感染症	アメーバ赤痢									1	1	2	4
	ウイルス性肝炎											1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症			2			2	2		7	1	3	13
	急性脳炎							2		1		1	4
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									2		7	9
	後天性免疫不全症候群											1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症							2		2		5	9
	水痘（入院例）							1	2	2		2	7
	梅毒							2		4		13	19
	破傷風									1		2	3
	百日咳											24	26
	定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ							625	290	892	567	1,190
RSウイルス感染症								2	5	26	4	37	74
咽頭結膜熱		1 0.25		6 0.75		4 0.40	11 0.38	103	57	122	9	89	380
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2 0.50	1 0.33	8 1.00	2 0.50	8 0.80	21 0.72	128	187	1,217	177	1,360	3,069
感染性胃腸炎		18 4.50	10 3.33	13 1.63		18 1.80	59 2.03	983	563	697	272	1,914	4,429
水痘				1 0.13			1 0.03	29	32	72	18	96	247
手足口病				2 0.25	1 0.25		3 0.10	18	3	33	9	55	118
伝染性紅斑								9	26	32		165	232
突発性発しん		1 0.25		4 0.50	3 0.75	3 0.30	11 0.38	33	24	185	67	162	471
ヘルパンギーナ		2 0.50		1 0.13	1 0.25		4 0.14	69	2	21	4	8	104
流行性耳下腺炎			1 0.33				1 0.03		9	6	5	15	35
流行性角結膜炎				1 0.50			1 0.14	1	6	10	2		19
細菌性髄膜炎						1 1.00	1 0.20			1		2	3
無菌性髄膜炎						1 1.00	1 0.20	1			1	6	8
マイコプラズマ肺炎			1 1.00				1 0.20	2	12	26	16	9	65
クラミジア肺炎												1	1
感染性胃腸炎（ロタウイルス）										2	2		4
インフルエンザによる入院患者（*）					1		1					1	1

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

* インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和2年第36週(8月31日)～の集計です。